

一 置不呵責の文の事

仰せに云はく、此の經文に於ては日蓮等の類おそるべき文字一字之有り。若し此の文字を恐れずんば縦ひ当座は事無し共、未来無間の業たるべし。然らば無間の地獄へ引き入るゝ獄卒なるべし。夫とは置の一字是なり。此の置の一字は獄卒なるべし。謗法不信の失を見ながら聞きながら、云はずして置かんは必ず無間地獄へ墮在すべし。仍って置の一字は獄卒阿防羅刹なるべし。尤も以て恐るべきは置の一字なり云云。所詮此の經文の内に獄卒の一字を恐るべきなり。此の獄卒の一字深く之を思ふべし。日蓮は此の字を恐るゝが故に建長五年より今弘安年中まで在々所々にて申しはりしなり。只偏に此の獄卒を脱れんが為なり。法華經には「若人^{にやくにん}不信」とも「生疑^{しょうぎ}不信者」とも説き玉へり。法華經の文々句々をひらき、涅槃經の文々句々を開きたり共、置いて云はずんば叶ふべからざるなり。此の置の一字より外に獄卒は無きなり云云。